

網住者ってどんなひと？
南相馬の
カッコいい
おとな手帳



Uターン

群馬県 → 南相馬市

おとな手帖

No.05

めぐりめぐって帰ってきた

農業の世界で生きていく



今回のかっこいい大人

たけだ ゆきひろ

武田 幸彦さん (35)

南相馬市鹿島区生まれ

お仕事 武田ファーム 代表

移住歴 2016年～



武田さんが食べたい野菜の一つの芽キャベツ



生育状況を見て出荷時期を決める

18歳

進学で神奈川県へ。食品について学ぶ

23歳

アメリカワシントン州にて農業研修

24歳

群馬県の農業商社にて営業を担当

28歳

南相馬市に戻り、新規就農





武田さんに Q & A 聞いてみた!



Q1. Uターンして農業を始めると決めた きっかけを教えてください。

A. 震災後は放射能などの風評被害があり、農作物を作ること自体が罪のような言い方もされてしまい、生産すること自体がハイリスクでした。しかし、他県で営業の仕事をしていた時にとある企業から、「もし、南相馬で野菜を作るなら買います」という内容の言葉をかけてもらいました。

買ってくれる人がいるならと、地元に戻り、農業を始める計画を立てました。当時は、生産者がいなくなってしまっていたので、自分で農業をし、販売まで一貫して受け持つかたちで始めました。そんな人が増えれば農業の発展にも復興にもなりますし、今まで売ることができなかった農作物を売ることができるようになります。お客さんがいれば産業は成り立つので「買いますよ」という言葉はとても大きく、農業を始める決断のきっかけになりました。

Q2. 南相馬市で農業をする 魅力を教えてください。

A. 農業の魅力は、自分の就業形態を自分で決められることです。育てる作物によって、年間のスケジュールも自分で決めることができますし、どれくらい稼ぎたいかも自分で決められます。あとは自分の食べたい野菜を作れるのも魅力ですね。

南相馬市では、農業用の機械を導入するための補助金制度があるので、最新の機械や他地域では手に入らないような機械が導入しやすいメリットがあります。研究施設「福島ロボットテストフィールド」があり、農業用の機械も研究されているんですよ。機械が充実すれば1人で栽培する規模を大きくできます。今では農業について近所の小学校で話す機会もあって、育てている野菜にちなんで、「ブロッコリーお兄さん」なんて呼ばれたりしています。地域の人たちと交流しながら、農業の楽しさを伝えられるのも喜びです。



わたしが記事にしました!



藤木 千尋
原町高校 2年

編集後記

農家のお話は市街地で育った私にとってどれも興味深く、楽しい取材になりました。農業の魅力だけでなく、大変さも知ることができたのは貴重な経験です。武田さんの大学時代やアメリカにいた頃のお話を聞いて、将来の選択肢が広がったような気がします。



武田さんの暮らし・仕事について
さらに詳しく!

Webサイトの記事はこちら→



My favorite Minamisoma
南相馬のお気に入り

武田ファームの畑

Takeda Farm's field

四季折々の
風景が好きです



自分の作った畑が好きです。四季折々に姿かたちが変わる風景を眺めています。特に、米の収穫時期を迎えて、黄金色に染まる田園風景を見ていると感慨深いですね。一年に一度しか見られないですから。農家だからこそ、好きな野菜が育てられるのも嬉しいです。枝豆や芽キャベツは、自分が食べたくて栽培しています。

ORINORI

移住者ってどんなひと？
南相馬の
カッコイイ
おとな手帖 って？

南相馬市には他地域から移住し、自分らしくカッコよく働くおとなたちがたくさん暮らしています。

彼らが「今、ここにいる理由」はさまざま。夢を叶えるため、誰かと共に生きるため……。それぞれの物語を紐解いていくと、多様な南相馬の魅力に気づきます。

「移住者」に会いに行くのは、南相馬市で育った高校生たち。自分たちには当たり前な環境も、移住者のみなさんの視点を借りると、なんだか違って見えてくる！

Publisher：南相馬市役所 移住定住課

Direction：marutt Inc.

Editor：小野民、蒔田志保、藤木千尋、舟田理歩、増田和馬

Designer：高木市之助

Photographer：鈴木宇宙

南相馬で自分らしい暮らしを
実践している先輩移住者がたくさん！

南相馬市 移住者インタビュー Webサイトはこちら→

